



しびき



CONTENTS

- 1 理事長就任挨拶
- 2 2020年度役員・委員長を紹介
- 2 新社長登場（株）前田製作所 前田洋子
- 2 新社長登場（株）東邦シートフレーム（株）鈴木康友
- 3 鋼製ドラムは、リサイクルの優等生
- 4 2019年度出荷実績／200Lドラム缶市場動向推移



第25代理事長 就任挨拶

理事長就任にあたって



JFEコンテナ株式会社  
代表取締役社長 那須 七信

去る5月28日の総会にて、藤井前理事長の後任として、ドラム缶工業会の第25代理事長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

国内外の経済動向

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により国内外の経済活動は大幅に停滞し、日本の2020年4-6月期の実質GDPは戦後最大のマイナス成長となり、200L新缶ドラム、ペール缶共に出荷数量はリーマンショック以来の低レベルとなっております。製造業におけるグローバル・サプライチェーンは、コロナ対策も含めた「ニュー・ノーマル（新しい常態）」へ見直しが迫られる、そのような激変期を迎えています。今後、感染症流行防止策の進展、景気回復に期待しつつ、コロナ前の水準まで景気が回復するには長い道のりが想定されます。

鋼製ドラム缶・鋼製ペール缶業界の役割

鋼製ドラム缶・鋼製ペール缶は、内容物を充填せずに輸出入されることのない、いわば地産地消の製品ですが、お客様の国際的な取引によりグローバル・サプライチェーンの一部を担っています。化学・石油・塗料、各種の薬品を始めとする日本を代表する産業へ、優れた機能・品質・デリバリーなどを有する容器をご提供することで、我が国産業の国際競争力の強化に貢献してきたともいえます。激変期を迎え、我々が求められていることは「Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地元から行動すること）」だと思います。

工業会としての取り組み

当工業会は、国内外の情報収集と発信により会員各社の「Think Globally」をサポートし、ドラム缶・ペール缶の総合的な技術力の維持、その優位性の強化に寄与してまいります。

第一に、国際活動の活性化に努めてまいります。産業用容器のグローバルな動向の情報収集を目的に、引き続きICDM（国際鋼製ドラム製造業者連合会）とは連携を密にとつてまいります。

また、AOSD（アジア・オセアニア鋼製ドラム製造者連合会）については、昨年10月に国際会議を中国蘇州にて開催しました。今回は2022年に韓国にて開催する予定です。会長としてリーダーシップを発揮しつつ、日本の先進技術が容易に流出しないよう注視を怠らず対応してまいります。

第二に、国際基準と国内基準との整合性の向上です。2017年に改定されたドラム缶JIS規格と国際規格との整合性を取るべく、ICDMとの連携によりISOの改正に向けた活動を推進中です。

第三に、鋼製ドラム缶・鋼製ペール缶の社会的認知度の向上です。分かりやすいPRツール・アクセスし易い媒体を整備し、災害時の支援物資としてのニーズ、環境に優しい容器であることなど、製品の優位性や業界の魅力・特性を広く社会に情報発信してまいります。

第四に、安全で安心出来る職場作りです。会員各社の災害事例の分析・情報共有、安全交流会の実施などを通じて、完全無災害の達成まで会員各社と知恵を絞り継続して取り組んでまいります。

最後に、コンプライアンスに関する取り組みです。コンプライアンス研修会の開催、関連する各種情報の発信など、会員各社の社内統制のサポートを継続していくと共に、「健全な競争なくして健全な経済成長はない」という独占禁止法の原点に立ち返り、当工業会の諸活動を技術や広報活動に一層の力点を置く体制への移行を試みていくことといたします。

何卒ご協力・ご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

# 2020年度役員・委員長の紹介

2020年6月26日現在

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 理事長</li> </ul>		那須 七信	JFEコンテナ(株)	代表取締役社長
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 副理事長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 200L缶関係</li> <li>● 中小型缶関係</li> <li>● ペール缶関係</li> </ul>	藤井 清澄	日鉄ドラム(株)	代表取締役社長
		山本 和男	(株)山本工作所	代表取締役社長
		前田 洋子	(株)前田製作所	代表取締役社長
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 常任理事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 兼監事</li> <li>■ 兼監事</li> </ul>	内藤 誠	斎藤ドラム罐工業(株)	代表取締役社長
		黒田 肇	(株)ジャパンペール	代表取締役社長
		金子 賢三	新邦工業(株)	代表取締役社長
		東 和彦	ダイカン(株)	代表取締役社長
		今井 久代	(株)東京ドラム罐製作所	代表取締役社長
		鈴木 康友	東邦シートフレーム(株)	代表取締役社長
		長尾 浩志	(株)長尾製缶所	代表取締役社長
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 委員長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企画・統計委員長</li> <li>● 技術委員長</li> <li>● ペール委員長</li> <li>● 安全委員長</li> </ul>	村上 伸二	JFEコンテナ(株)	取締役執行役員
		島田 政則	日鉄ドラム(株)	取締役常務執行役員
		足立 敏	(株)前田製作所	取締役品質管理部長
		平木 大悟	(株)東京ドラム罐製作所	工場次長
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事務局長</li> </ul>		坂元 信之	ドラム缶工業会	専務理事

## 株式会社前田製作所

### 前田 洋子



前田製作所は私の父が1946年に創業しました。そして、私が4代目の社長に就任して3年が経ちました。

まさか社長になるとは思っていなかったので、何もわ

からず戸惑うばかりでしたが、製造業にとって大事なのは工場を知ることだと考えました。現場の社員のアンケートとミーティングで社員の顔を知ると、社員を通じて現場の実態を実感できるようになり、会社の全容を工場から眺められることに気がきました。

それまでは会議の課題を事柄として受け止めていたのが、現実として理解できるようになりました。

昨年は工場に空調を入れたり、女子トイレの修繕をしました。実行に踏み切ることができたのも、現状を社員と共有した結果です。

私も今年から工業会の活動に出席させていただくことになりました。工場の課題はまだたくさんありますが、前田製作所を現場中心の会社に改善するとともに、業界のさらなる発展に力を尽くすつもりです。

## 東邦シートフレーム株式会社

### 鈴木 康友



1989年に新日本製鐵(当時)入社。室蘭製鐵所を経て本社薄板営業部・支店等で主に薄板営業を担当。本年3月までは日本製鉄北海道支店に10年間在籍。

2018年に発生した北海道胆振東部地震では支店をあげて震災復興対応に取り組んだことが印象深い。

足元新型コロナウイルスの感染拡大で容器の主要向け先である石油・化学業界についても大きな影響を受けており、容器生産についても前年比マイナスの状況を余儀なくされている。この影響が早期に収束することを願ってやまないが、厳しい状況に立ち向かうためにも当工業会の活動を通じて、会の発展に微力ながら貢献出来ればと考えている。本年6月の社長就任に際しては「安全第一、安全は全てに優先する」ことを社員に伝えた。安全に関しては当工業会の重点課題でもあることから、メンバーの皆様の取組事例などを参考にさせていただきながら、無事故・無災害を実現したい。1966年10月生(53歳)、北海道北広島市出身。

# 鋼製ドラムは “リサイクルの優等生”



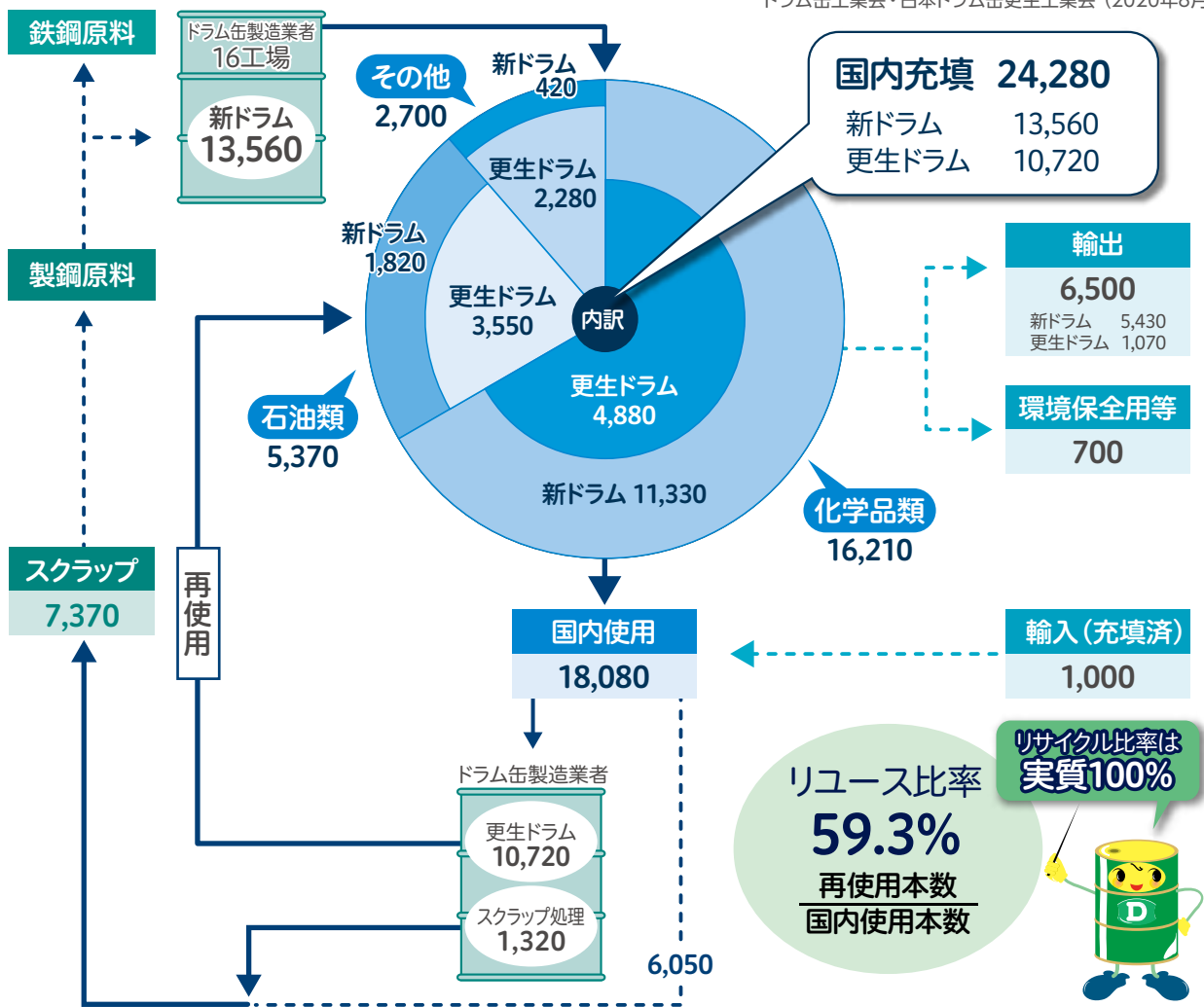
資源としてのリサイクル比率は実質 100%

鋼製ドラムは使用后、一部は更生缶メーカーに回収され、一部はユーザーから直接スクラップ処理業者に回収されています。ドラム缶はこのようにリユース（再使用）およびリサイクル（再利用）のシステムが確立しており、循環型リサイクル

の優等生といえます。下の図は2019年度版200L鋼製ドラムリユース&リサイクルフローチャートです。ドラム缶のリユース比率は59.3%になりますが、環境保全用ドラム缶を除くと、資源としてのリサイクル比率は実質100%になります。

## 200L鋼製ドラム リユース&リサイクルフローチャート (2019年度ベース 単位:千本)

ドラム缶工業会・日本ドラム缶更生工業会 (2020年8月)



		当初(1997年)	2014年度ベース	2015年度ベース	2016年度ベース	2017年度ベース	2018年度ベース	2019年度ベース
工場数	新ドラム	18工場	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)	16工場 (変わらず)
	製造本数							
製造本数	新ドラム	12,000千本	13,730千本 (+2.1%)	13,570千本 (▲1.1%)	13,640千本 (+0.5%)	14,130千本 (+3.6%)	14,000千本 (▲0.9%)	13,560千本 (▲3.1%)
	更生ドラム	16,000千本	10,950千本 (+1.7%)	10,850千本 (▲0.9%)	10,920千本 (+0.6%)	11,020千本 (+0.9%)	11,240千本 (+2.0%)	10,720千本 (▲4.6%)
国内充填		28,000千本	24,680千本 (+1.9%)	24,420千本 (▲1.1%)	24,560千本 (+0.6%)	25,150千本 (+2.4%)	25,240千本 (+0.4%)	24,280千本 (▲3.8%)
国内使用		26,000千本	18,390千本 (+1.8%)	18,210千本 (▲1.0%)	18,310千本 (+0.5%)	18,700千本 (+2.1%)	18,820千本 (+0.6%)	18,080千本 (▲3.9%)
リユース比率		61.5%	59.5% (▲0.1%)	59.6% (+0.1%)	59.6% (0.0%)	58.9% (▲0.7%)	59.7% (+0.8%)	59.3% (▲0.4%)



# 2019年度出荷実績

2019年度の200L缶の出荷は、前年度に比べ3.1%減、440千本減の13,560千本となりました。

用途別では、前年度に比べ化学向け(2.9%減、316千本減)、石油向け(6.6%減、128千本減)、食料品向け(6.6%減、16千本減)が減少し、塗料向け(0.2%増、2千本増)、その他向け(9.7%増、17千本増)が増加しました。

ペール缶は前年度比4.0%減の18,643千本、中小型缶は同7.9%減の480千本となりました。

## 2019年度缶種別・用途別出荷実績

缶種	2019年度実績						
	本数 (千本)	前年度比 (%)	用途別〔(本数) (千本)〕				
			石油	化学	塗料	食料品	その他
200L缶	13,560	96.9	1,816 (93.4)	10,589 (97.1)	738 (100.2)	220 (93.4)	196 (109.7)
ペール缶	18,643	96.0	10,099 (98.6)	7,475 (92.2)	507 (92.9)	0	563 (105.7)
中小型缶	480	92.1	2	462	4	0	13
亜鉛鉄板缶	399	100.0	0	387	6	3	3
ステンレス缶	30	79.6	0	30	0	0	0
合計	33,111	—	11,916	18,942	1,254	223	776
※前年度比 (%)	—	—	94.6	96.6	100.3	92.7	106.5
※構成比 (%)	—	—	16.8	74.8	5.2	1.5	1.7

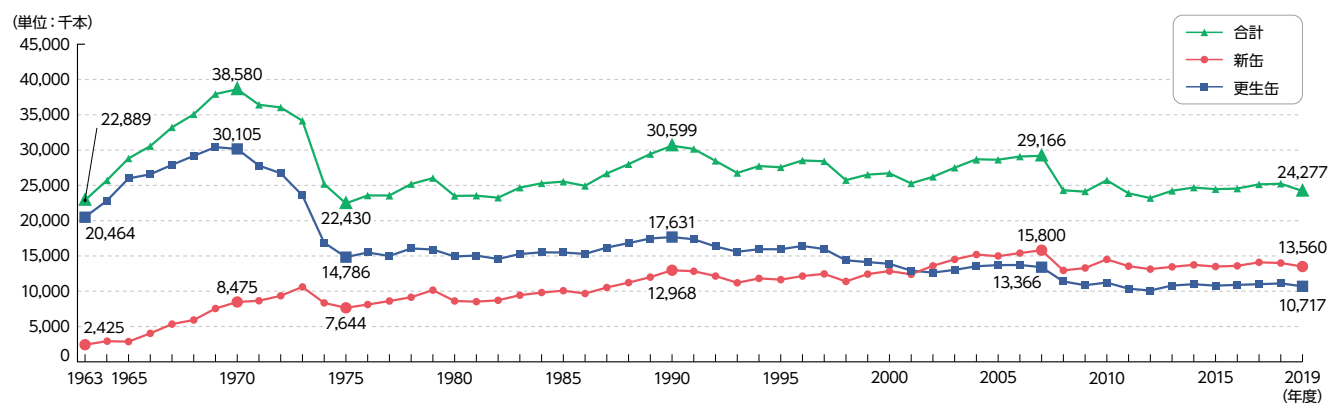
(注) 1. 用途別 200L缶、ペール缶の下段( )は前年度比。

2. ※前年度比ならびに、※構成比は、トン数ベース。

3. 亜鉛鉄板缶、ステンレス缶は、200Lドラムおよび中小型缶を含む。

4. 総本数は、33,112,423本。表上数値は四捨五入による差異がある。

## 200Lドラム缶市場動向推移(1963年度~2019年度)



(注) 1. 千本以下四捨五入。

2. 1963年度の新缶生産本数は不明につき、生産トン数67,002トンを1965年暦年平均単重27.63kgで逆算して算出した。

### 編集後記

ドラム缶工業会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在、各種行事を自粛、延期しています。その影響もあり今号は通常8ページでの発行を4ページに縮小しました。また事務局も感染予防措置を講じた業務体制としています。会員企業並びに関係者の皆様にはご不便、ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

### 会員

#### 《正会員》

- 斎藤ドラム罐工業(株)
- JFEコンテナ(株)
- (株) ジャパンペール
- 新邦工業(株)
- ダイカン(株)
- (株) 東京ドラム罐製作所
- 東邦シートフレーム(株)
- (株) 長尾製缶所
- 日鉄ドラム(株)
- (株) 前田製作所
- (株) 山本工作所

#### 《準会員》

- 森島金属工業(株)

#### 《賛助会員》

- エノモト工業(株)
- (株) 大和鉄工所
- 三喜プレス工業(株)
- (株) 城内製作所
- 東邦工板(株)
- (株) 水上工作所

### ドラム缶工業会

〒103-0025  
東京都中央区日本橋茅場町3-2-10  
(鉄鋼会館6階)  
TEL 03-3669-5141  
FAX 03-3669-2969  
e-mail: drum.pail@jsda.gr.jp

URL: <http://www.jsda.gr.jp/>

ひびき No.81 (2020年9月4日発行)

発行人 ドラム缶工業会  
専務理事 事務局長 坂元 信之

無断での複製、転載はお断りいたします。詳細はお問い合わせください。  
本誌は環境に配慮した工程で印刷しています。